



ことしば



3月号

【学校教育目標】

「挑戦し、未来を拓く『琴芝っ子』の育成」



玄関前の『うめ』

『晴れてよし 曇りてもよし 富士の山』

もとの姿は かわらざりけり』



あっという間に2月も過ぎ、早3月となりました。1年生が2学期に植えたチューリップの球根からもたくさんの芽が出て、日ごとにぐんぐん成長しています。子ども達は、毎朝水やりをしながら、自分のチューリップの成長に目を細め、「わぁ、こんなに大きくなったよ!」「わたしのほうが、おっきいよ!」など友達と自慢し合っています。気温の変化に一喜一憂している人間をよそに、自然の草木は確実に春の到来を感じとっています。

『晴れてよし 曇りてもよし 富士の山 もとの姿はかわらざりけり』 幕末の剣豪・山岡鉄舟の言葉です。周囲の環境（人、もの、こと）はその時々状況や状態によって変化するものです。その変化に一喜一憂したり惑わされたりせず、『自分』をしっかりともっていれば、その環境がどうであろうと充実したものになるという意味の歌です。今、それぞれの学年で1年間のまとめと新しい学年に向けた準備をしています。6年生は、卒業に向けて小学校での学びを振り返り、中学校へ向けて気持ちを新たにしているところです。2月に開催した参観日では、子ども達の成長の様子をしっかりと見ていただけたのではないのでしょうか。目に見える変化や成長だけでなく、小さな変化、小さな成長を見逃さず、しっかりと認め、それを子ども達に伝えることが、自信と意欲を持つことにつながり、新たな課題に向かっていく力が湧いてくるのではないかと思います。



家族に感謝（6年）

2020年度から新しい学習指導要領が実施され、教育内容も大きく変わります。宇部



1/2成人式（4年）

市では、小中一貫教育も始まります。そのような社会の変化に対しても、『自分』を見失うことなく、自ら考え、挑戦し、新しい社会をたくましく生き抜く力を身に付けることができるよう、私たち教職員も一丸となってがんばっていききたいと思います。

保護者、地域の皆様方には、本校の教育活動に対して、ご理解とご支援、ご協力をいただいたことに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。来年度も引き続きよろしくお願いいたします。



校長のつぶやき

『ひっそりと日本海に咲く月見草』 ～名将、野村監督に学ぶ～

先月、プロ野球で活躍した野村克也さんが亡くなりました。野村さんは自分自身のことを「王や長嶋がヒマワリなら、俺はひっそりと日本海に咲く月見草だ」と表現されました。確かに、私の幼少時代は、『巨人、大鵬、卵焼き』という言葉に象徴されるように、野球と言えば、『巨人』、その中でも『王』『長嶋』は特別な存在でした。そのため、戦後初の三冠王という本人の記録も素晴らしいものでしたが、二人の影に隠れてあまり目立たなかったのも事実です。しかし、そのことでふてくされることなく、逆にそれをバネに自分自身を鼓舞して、生涯一捕手として研究を重ね、また監督として厳しさと優しさを持って選手を育て、その存在を知らしめた姿には、心を打たれるものがあります。野村さんといえば、『ID野球』。データを分析し、それに基づいて理論的に戦術を立てるというイメージです。ピッチャーの役割分担（先発、中継ぎ、抑え）を導入したり、盗塁を阻止するためにクイックモーションを取り入れたり、ストライクゾーンを9分割して解説したり、現在では当たり前のことを初めて実践したのも野村さんです。一方、ヤクルト時代の愛弟子、古田敦也さんは、「どちらかというと感情的で、負けず嫌いのかたまり。」とも話しています。「ど真ん中のストレートで空振りさせる」ために、キャッチャーマスクの中からブツブツ独り言を言いながら、打者の考えを感わせたというエピソードも有名です。

野村さんの生き方から、物事をデータに基づき正確に分析する力（学力）と、それを工夫し新しいことにチャレンジする力、そして内面から湧き出る「なにくそ!」という気持ち（やる気）をもって地道に努力することで、ひっそりと咲く月見草であってもきっと輝くことができるということを教えられました。